

今回の「SRtimes」では、7 月 4 日（月）～5 日（火）の「SSH合同巡検」とそれに先立って行われた「合同巡検講演会」についてお伝えします。

【生物実習】

＜概要＞

5 月 19 日（木）に、東北大学大学院生命科学研究科附属浅虫海洋生物学教育研究センターより武田 哲先生をお招きして、「浅虫海岸の生物と海洋生物調査法」と題する講演会がありました。近辺に生息している生き物の紹介、干潮時と満潮時の水位の違いや潮上帯の環境変化の激しさなど、生物実習のテーマを設定する上でのヒントや実際の調査方法など様々なことを教えていただきました。

これまで海洋生物実習について具体的なイメージが持てなかった人もこの講演会を通して課題研究への関心が出てきたようです。充実した生物実習を行う上での良い機会となり、とても有意義な時間を過ごせました。

＜受講者の感想＞

- ・二枚貝を用いた実験において、塩分濃度に関するアドバイスはとても役に立った。
- ・どんな実験をするのかは決めていないが、実験例は参考になった。



【考古学】

＜概要＞

6 月 10 日（水）に、東北歴史博物館の佐藤 憲幸先生をお招きして、「縄文時代の東北地方～三内丸山遺跡を中心に～」と題し、「そこに科学はあるのかい？」をテーマとした講演をしていただきました。縄文時代の人々による革新的な発明である『土器』などについて、とても貴重なお話を聞くことができました。

【土器の革新性】

調理具/容器/食器と用途は様々
保存に有効
人類初の化学変化を利用した技術

- ◆東北地方の人々は、稲作を放棄し積極的に北海道からの文化を受け入れた。
縄文文化を取り戻した！

＜佐藤憲幸先生へのインタビュー＞

Q：考古学を研究する上で大切なことは？

A：重要なのは**史料批判**。**常に疑問を持って多角的に考える**ことです。

Q：最近の研究で大きな発見となるものは何ですか？

A：研究が進むにつれて縄文・弥生時代の始まりが段々と遡ってきています。時代の成立が早まると自然環境などの文化が成立した条件が変わるので教科書が変わるかもしれません。

＜受講者の感想＞

- ・他地域とも交流していたことを知って、ますます興味がわいた。
- ・中学校の歴史で習ってきたことが、今では変わってきているということに驚いた。



【合同巡検】

＜概要＞

7月4日(月)、5日(火)の2日間にわたり、私たちはSSH合同巡検として、青森県の三内丸山遺跡と浅虫海岸を訪れました。両日ともに好天に恵まれ充実した活動を行えました。

＜三内丸山遺跡＞

仙台からバスで5時間の移動の末、降り立った地は青森県青森市に位置する三内丸山遺跡。教科書の中でしか見たことのないその地は、私たちの好奇心をくすぐりました。この遺跡は、江戸時代よりその存在を知られていたのですが、1992年から発掘調査が始められ今も続いています。今では、約600棟の住居跡や200体もの土偶、1000基以上の墓などが発掘されています。また、他の地との交流があったことを示すヒスイや黒曜石や、生活の様相をあらわす土器や矢やモリなどの道具も出土しています。しかし、これでもまだ遺跡の全容は発掘されていないそうです。

発掘・出土した物は国の重要文化財に指定されているとともに縄文時遊館に一部展示されています。

＜生物実習＞

合同巡検2日目は、この日のために各班で話し合い、計画してきた生物実習を行いました。

初めは実験で用いる生物をなかなか見つけられなかったところも多かったようですが、徐々に磯での移動や生物を見つける目も慣れていき、晴天のおかげもあって生物を発見し実験を行うことができましたようです。また、場所により住んでいる生物の種類が違うため、他の班と協力したり、他のテーマに変えて実習を行ったりした班もありました。そうして、イソギンチャクの捕食、ヒトデの反応、カニの生態など様々な生物の実験を行うことができました。これは、浅虫海岸の豊かな生態系があつてこそ可能だったことです。普段はできないような経験、生命との関わりを持って多くの事を学べたと思います。

【編集後記】

今回の『茶畑 SRtimes』はいかがだったでしょうか？編集では予期せぬトラブルもあり、大変でしたが、しっかり構成できたのでよかったです。

さて、いよいよ様々なレポートやポスター等の作成・提出に追われる時期がやってきます。2年生への準備ということもあるので、がんばりましょう。

